

極秘

石炭液化事業ニ關スル件

我國及隣接地域ニ於ケル燃料資源竝代用燃料工業ノ現況ニ鑑ミ速ニ燃料國策ヲ確立シ之ヲ遂行スルコト緊要ト認メラルル處之ガ具現ノ一階梯トシテ滿鐵會社ニ於テ立案セル石炭液化事業計畫ノ實施ヲ促進スルコト可然ト認ム而シテ之ガ爲生ズルコトアルベキ滿鐵ノ負擔ハ該事業ノ確立スルニ至ル迄之ヲ過大ナラシメザル様政府ニ於テ適當ノ措置ヲ講ズルモノトス

極秘

石炭液化事業ニ關スル説明要旨

我國ノ石油需要高ハ逐年異常ノ増加ヲ示シツツアルモ由來我國ハ石油資源ニ乏シキヲ以テ需要ノ大部ハ外油ニ依リテ充足シツツアル状態ニシテ國家經濟上ヨリスルモ將又國防上ヨリスルモ速ニ液体燃料ニ對スル根本方策ヲ確立シテ自給ノ途ヲ講ズルコト緊要ナリトス然ル所滿鐵ニ於テハ昭和三年以來海軍省ト協力シテ銳意石炭液化事業ニ關スル調査研究ヲ進メツツアリシガ漸ク其成案ヲ得近ク之ヲ企業化スルノ運トナレリ該事業計畫案ニ依レバ約一千四百萬圓ヲ投ジテ撫順ニ工場ヲ設置シ撫順炭ヲ處理シテ年産二萬屯ノ粗油ヲ生産セントスルモノニシテ我燃料政策上ヨリ見テ誠ニ當ヲ得タルモノト思料セラレ

乍然本工業ハ獨逸、英國等ニ於テハ既ニ採算可能ノ域ニ達セルモ本邦ニ於テハ全然新規ノ境地ヲ拓ク事業ニシテ多額ノ建設費ヲ要シ現

在本邦ニ於ケル石油價格ヲ以テスレバ未ダ採算上不利アルヲ免レザ
ルノミナラズ外國ノ特許等ニ頼ラズ本邦獨自ノ技術ニ依ルモノナル
ヲ以テ事業著手後當分ノ間尙難關ニ遭遇スルヤモ計ラレズ依リテ本
事業ノ爲生ズルコトアルベキ滿鐵ノ負擔ハ事業ノ確立スルニ至ル迄
之ヲ過大ナラシメザル様政府ニ於テ適當ナル措置ヲ講ズルコト必要
ナリト認ムル次第ナリ

極秘

石炭液化事業計畫

一、經營ノ方法

本事業ハ會社直營トシ會計ハ特別勘定トス

二、工場設置ノ場所

次ノ理由ニヨリ撫順トス

イ、原料炭ヲ任意ニ低廉ニ得ラルルコト

原料ノ產地ハ撫順ナルヲ以テ、撫順ニ工場ヲ置クコトハ運搬費其
ノ他ノ節約トナリ又必要ニ應シ任意ノ數量及種類ヲ得ラルルヲ以
テ貯藏其ノ他ノ經費ヲ節約シ得

ロ、電力ノ安價ナルコト

本工場ハ多量ノ動力ヲ要スルニ撫順ハ其ノ原料炭ノ關係上安價ニ
且多量ノ電力ヲ供給シ得ル利點アリ

ハ、用水豊富ニシテ安價ナルコト

本工場ハ多量ノ清水ヲ要スルニ撫順ハ渾河ニ接シ其ノ供給力豊富ニシテ且安價ナル利點アリ

二、本事業トオイルセル及低溫乾餾トノ關係

本計畫ハ混和用タールヲ自給自足ノ方針ノ下ニ計畫立案セルモ撫順ニ於テハオイルセル工業ヨリ生スル残渣油又ハ將來低溫乾餾工業ヲ起シソレヨリ生スルタールヲ混和用タールニ使用シ生産費ヲ節減シ生産量ヲ増加シ得ル見込アリ、又本事業ト經濟的ニ最重要ナル關係ヲ有スル水素製造ハオイル工業ヨリ生スル廢瓦斯ノ利用、メタンノ熱分解、低溫乾餾瓦斯及半成骸炭ニヨル水素製造ノ研究ニ伴ヒ將來安價ナル水素ヲ得ヘキ利點ヲ有ス

三、計畫ノ規模

本計畫ノ設備ノ主體タル反應筒ハ國産品ニシテ現在製作シ得ル最大規模ノモノ三單位ヲ設備シ一日精炭一〇〇噸ヲ液化シ製品約二萬噸ヲ得ルモノトス

四製法

イ、液化方法

本計畫ノ液化方法ハ高壓高溫ノ下ニ觸媒ヲ使用シ石炭ニ水素ヲ添加シ之ヲ液化スル方法ニシテ所謂石炭ノ直接液化方法ナリ、本方法ハ海軍燃料廠ト滿鐵トノ共同ノ下ニ昭和三年以來燃料廠ニ於テ研究ノ結果連續半工業試驗ニ成功シ充分企業化ノ自信ヲ得、一方中央試験所ニ於テモ液化ノ基礎的研究ヨリ更ニ進ムテ小規模連續式工業試驗ニ移リ液化企業ノ可能ナルコトヲ證明セル故本企業計畫ニ於テハ燃料廠ノ研究ト中央試験所ノ試験結果トノ各長所ヲ採

用シ立案計畫セリ

ロ、水素製造方法

添加用水素ノ製造ハ現在最善ノ方法トシテ一般ニ使用セラルル水性瓦斯製造法ヲ採用スルコトトシ此ノ外ニ液化ノ際發生スル排瓦斯中ノ水素ヲ冷却式ニヨリ分離シ循環使用スル方法ヲ採用セリ

ハ、製油方法

液化油ノ分溜方法ハ現在ニ於テ最經濟的ナル方法トシテ一般ニ使用セラルル連續蒸溜法ヲ採用スルコトトシ輕質油ノ精製方法ハ分溜ヲ確實ナラシムル爲ニ單獨蒸溜法ヲ採用セリ

液化油中ノ燈油分ハ品質良好ナラサルヲ以テ第二次水素添加法ヲ施行シ優良ナル揮發油ヲ分溜採取スルモノトシ計畫立案セリ

五、製油

液化油ヲ精製シタル製品ハ航空揮發油、自動車揮發油、重油、クレ
ゾール一級品及二級品ノ五種トシ其ノ數量及性狀次ノ如シ

イ、航空揮發油

七七二ニ坪

攝氏百七十度以下ノ溜分ニシテ比重〇・七二六オクタン價七〇以
上ニシテ更ニ四エチル鉛ニ依リオクタン價ヲ容易ニ向上シ得ル特
性ヲ有シ航空機用トシテ最優良ナル揮發油ヲ生産スルモノナリ

ロ、自動車揮發油

三一〇ニ坪

攝氏二百度以下ノ溜分ニシテ比重〇・八オクタン價六〇以上ニシ
テ自動車揮發油トシテ最優良ナル揮發油ヲ生産スルモノナリ

ハ、中油

八三一六坪

攝氏二百五十度ヨリ二百八十度マテノ溜分ニシテ比重〇・九六デ
ゼル油又ハ燃料油トシテ良好ナルモノヲ生産スルモノナリ

ニ、クレゾール一級品

七一一年

攝氏二百五度以下ノ溜分ニシテ比重一・〇四五、ペークライトノ原料トシテ目下多量ヲ外國ヨリ輸入シ居リ又最近火薬ノ製造原料トシテ國防上缺ク可カラサルクレゾールヲ生産スルモノナリ

ホ、クレゾール二級品

三〇五年

攝氏二百五度ヨリ二百十五度マテノ溜分ニシテ比重一・〇四、前者ニ比シ品質劣ルト雖同様ノ用途ニ使用シ得ルモノヲ生産スルモノナリ

六、事業費及收支計算

イ、事業費

▲、設備費

一四〇〇三、五〇七圓

内譯

洗炭設備	二九七一四八圓
液化設備	二五六六九二〇圓
製油設備	六五二〇四二圓
水素壓縮設備	二二六六六八六圓
水素製造設備	一三七二、四二二圓
廢瓦斯分離設備	一、二三八、三六〇圓
クレゾール製造設備	五九三七八圓
鹽酸製造設備	一五三、五七九圓
觸媒回收設備	七二、二七八圓
再蒸餾設備	一一二、三八三圓
二次水素添加設備	一〇三、三六六圓
汽罐場設備	二七四、六八八圓

修理工場設備	二三三八三四圓
電氣設備	五六五九〇八圓
鑄造工場設備	三二六二四圓
倉庫設備	二八一五二圓
配管設備	一八四〇〇圓
雜設備	五〇一九四圓
敷地整備	四二二五六圓
事務所設備	八七八三四圓
社宅設備	六一五七八七圓
建設事務費	八二三、五九五圓
豫備費	五五〇、〇〇〇圓
建設中ノ金利	七九〇、七七三圓

B、運轉資金

經費四箇月分ヲ計上ス

一、三五〇、〇〇〇圓

ロ、收支計算

▲、収入

三一、四六四、三六圓

内 詳

製 品	単 價	數 量	金 額
航空揮發油	二〇〇圓	七、七二二・〇軒	一、五四四、四〇〇圓
自動車揮發油	一〇五〃	三、一〇二・〇〃	三一九、五〇六〃
重 油	五〇〃	八、三一六・〇〃	四一五、八〇〇〃
クレソール一級品	三五〇〃	七、一一・四〃	二四八、九〇〇〃
クレソール二級品	三〇〇〃	三、〇五・〇〃	九一、五〇〇〃
罐 及 箱			五二六、二四〇〃

支 出

五、一三二、一三三・五〇八圓

五

B、支出

四〇四一、九七五・七八圓

內譯	原料費	用品費	補修費	人件費	物件費	雜件費	土地使用料	資金利子（年六分）	減價償却費	本社總體費及炭礦割掛費
	一七二、〇二二・四〇圓	一、三八二、七八七・三〇圓	五〇六、五四四・八八圓	三九四、〇八一・五七圓	六七一、四〇〇圓	一〇、六五六・〇〇圓	一、四二八・三二圓	九二一、二一〇・四二圓	三八〇、七八〇・八九圓	一〇、五七五〇・〇〇圓

豫備費

一五〇〇〇〇・〇〇圓

C、損益計算

總收入額

三一四六四三六・〇〇圓

總支出額

四〇四一九七五・七八圓

總損失額

八九五五三九・七八圓

七建設期間

建設期間ハ二箇年トシ昭和十一年四月起工シ同十三年三月完成スル

豫定

八所管箇所

建設及經營ハ撫順炭礦トスルモ技術的問題ニ就テハ計畫部ト協議ノ

上進抄セシムルコト

尙本事業ハ出來得ル丈建設費節約ノ必要アル爲炭礦割掛及撫順用度

割掛等ニ就テハ特種ノ取扱ヲナスコト
丸製品ノ販路

航空揮發油及重油ハ陸海軍ニ販賣シ自動車揮發油及重油ノ一部ハ滿
洲國專賣總署ヘ、クレゾールハ一般市場ニ販賣スルモノトス

IPS DOC 3506-B

1 PS DOC 3506-B